高齢者におけるインフルエンザ予防接種の需要分析とその検証

大日（オオクサ）　康史（ヤスシ）*

目的　リスクグループである高齢者のインフルエンザ予防接種に対する需要を分析する。そこから予防接種法改正の政策評価および補助によってどの程度需要が喚起されるかを明らかにする。

方法　同居世帯における高齢者と，独居・老夫婦世帯における高齢者に対して別々の調査を行い，高齢者自身の属性，世帯の属性，インフルエンザ罹患経験，予防接種経験等に加えて，仮想的な状況における接種希望を尋ねた。分析は，実際の接種，仮想的な状況でのコンジョイント分析，両者を融合させた結合推定を行う。

成績　3つの推定方法においても頑健的であるのは，費用感応的であること，接種回数，夜間・休日での接種，法的勧奨に強く影響を受けること，過去のインフルエンザ罹患経験，予防接種経験が接種率を高めることが明らかにされた。また，結合推定が安定的であり，もっとも信頼できる。

結論　予想接種率に人口を乗じた需要に直すと，最低は法的勧奨がなく費用も6,000円である場合の321.8万人，最高は法的勧奨があり無料である場合の893.2万人である。最低をほぼ現状であると考えると，最高の場合の接種率は'00/'01シーズンの3倍弱に達する。他方で，500円でも有料化すると160万人分の需要が落ち込む。また，法的勧奨だけでも200万人分の需要を喚起する事が明らかになった。

Key words：インフルエンザ予防接種，高齢者，コンジョイント分析，結合推定，需要予測

* 大阪大学社会経済研究所
連絡先：〒567-0047 大阪府茨木市美穂ヶ丘6-1
大阪大学社会経済研究所　大日康史